

授業科目名	建設現場のコミュニケーション（1）			開講年度・時期	2026年度 導入期
担当者名	佐々木 慶幸	単位数	1	総校時数	30
担当教員 実務経験					
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（講義・演示・計算演習・実習併用）				
授業の内容 （授業科目 の概要）	掘削関連はもちろんのこと近隣分野および一般的な屋内・屋外での作業においては、日常生活で使用される会話や用語とは異なる表現や現場ごとの特有の用語や言い回しがある。これらに慣れ、円滑かつ安全に仕事が遂行できるよう現場用語について正確に聞くこと話すことができるよう習熟する。				
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュール）	1 標示の意味を調べる（6校時） 2 ルールやマナーの説明を聞く（6校時） 3 災害時のアナウンスを聞く（6校時） 4 工場見学の説明を聞く（6校時） 5 予定や指示を聞く（6校時）				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な現場用語を身につける ・ 正確な聞き取りと意味の把握ができるようにする。 ・ 危険回避が必要な場面では自らが発声者となることが求められる。正確な用語や言い回しで話すことができるようにする。 				
成績評価の 方法・基準	次の項目を総合的に勘案して評価する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は評価を受けることができない。 1 課題についての提出物（レポート） 2 授業中の取り組み姿勢（指示されたことについて「聞き取り」「発声」「会話」ができているか） 3 疑問解消の努力（講師に対して積極的に質問を行う等、わからない部分を無くす努力を行っているか）				
受講にあたって の留意事項	自分の頭で考えること、他者と意見交換や協議を行い視野を広げること、一人で行う作業、協働作業などを柔軟に行う姿勢を大切にすること。				
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社		ISBN	
	ゲンバの日本語 基礎編	一般財団法人海外産業人材育成協会		ISBN978-4-88319-875-7	

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

